

## 学校経営のポイント

### 失敗にめげない反省力と挑戦力の育成

若井 彌一

暗い内容の報道が多いなかで、2人の日本人がノーベル物理学賞とノーベル化学賞を授与されることに決まったというビッグニュースは、じつに心地よいものであった。

今回は、このニュースを素材として考えてみたい。

#### 対照的だった2人の受賞者の反応

新聞報道等ですでに知られているように、去る10月8日、スウェーデン王立科学アカデミーは、2002年のノーベル物理学賞を小柴昌俊東大名誉教授(76歳)等3名に授与すると発表した。

ニュートリノ天文学を創始・開拓した業績が高く評価されたものである。ニュートリノは素粒子の一つであるが、その観測はきわめて困難とされていた。小柴氏は、独自の観測装置(カミオカンデ)によってその壁を破り、天文学に新たな地平を拓いた。

小柴氏は、この研究業績により、国内の学士院賞、仁科記念賞、文化功労者、文化勲章の榮譽に輝いていたし、国際的にもウォルフ賞の物理学賞に輝いていた。これまでも、毎年とっていいほどにノーベル賞候補の一人に挙げられており、今回の受賞については「ああ、来たなと思った」と感想を述べている(10月9日付各紙による)。

これに対して、10月9日に発表されたノーベル化学賞に輝いた田中耕一氏(島津製作所分析計測事業部ライフサイエンス研究所主任、43歳)の場合は、「生体高分子の同定と構造解析のための方法の開発」、具体的にはタンパク質の解析技術の開発が高く評価されたものである(10月10日付各紙による)。

田中氏の場合は、「寝耳に水で、信じられない」と受賞の喜びを語っている。

見事なくらいに受賞の弁が対照的である。

東北大学工学部を卒業後、民間の総合精密機器メーカーの一つである島津製作所に入社して今日にいたっているという経歴を考えると、「寝耳に水」の表現も誇張ではなく、率直な心情の吐露と思われる。民間会社勤務社員の初の受賞であるという点でも、小柴氏等これまでの物理学賞・化学賞の受賞者とは対照的である。

#### 失敗にめげない反省力と挑戦力の育成

2人の受賞者が、簡単にノーベル賞に輝く研究実績・水準に到達したものでないことはもちろんであるが、田中氏の場合は、実験の失敗が思わぬ好結果を生み出している点でとくに興味深い。

そして「失敗」はそれだけではなく、入社してから配属されたプロジェクトチームでは思わしい成果を上げることができず、会社の上層部の指示で他の研究手法に転換したとも述べている(10月11日付『読売新聞』による)。

そのことが、結果的に世界のトップクラスの研究成果を上げることになった。しかし、決定的に大切なことがある。それは、失敗を謙虚に受け止め、反省するとともに、明日を信じて前向きに挑戦するという継続的努力を抜きにしては成し得なかったということである。

児童・生徒に、このような反省する力と挑戦する力を身につける積極的取組みが切望される。

(わかい・やいち=上越教育大学教授)

■好評発売中! 資料CD添付/定価2730円■

教職研修'02情報版

今月の新刊案内(10月19日発売) 教育開発研究所刊

新教育課程実践事例集 No.4  
通知表工夫・記入事例集

A 5判 220頁・定価2415円

ピンポイント新教育課程実践 No.4  
事件・事故を回避する50のポイント

B 5判 200頁・定価2500円